

見て知る  
知って見る



— 私の歴史・文学散歩

# 電子書籍の操作について

- ・ 目次をクリックすると、該当ページまで移動します。  
また、移動先ページの見出しをクリックすると、目次に戻ります。
- ・ 「十字キー」やマウスのホイールを使用して読み進めます。
- ・ 「フルスクリーンモード」に設定すると、読みやすくなります。

「フルスクリーンモード」設定方法

メニューバー「表示」→「フルスクリーンモード」

Escキーで元の表示に戻ります。

※パソコン環境により、「フルスクリーンモード」が使用できない場合があります。

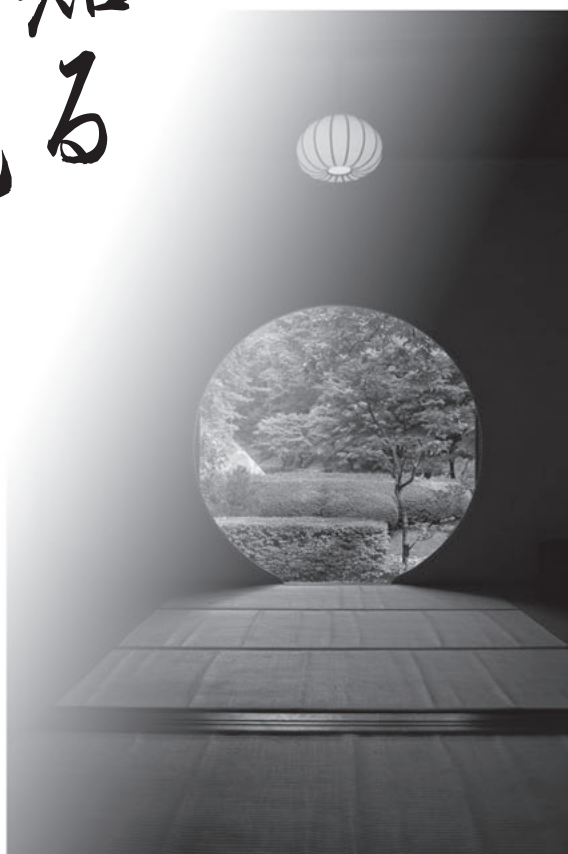
見て知る  
知って見る

— 私の歴史・文学散歩

小宮山直士

*Komiyama Naoshi*

文芸社





はじめに —— 「見て知る・知って見る」

私が今年案内している場所、案内するため下見に行こうとしている所はいくつかある。

山梨の桃の花の見学（四月）、鎌倉史跡めぐり（一月～十一月）、新撰組の京都（六・八月）、芭蕉の『おくのほそ道』の千住から山形まで（四・八・十月）、埼玉の巾着田の彼岸花（九月）などである。

私は、歴史・文学散歩に意義があるとすれば、「見て知る・知って見る」ことだと思っている。歴史に登場したり、文学に描かれている場所はどういう所かを実際に訪ねてみる。また、帰ってきて、さらに歴史書や文学書を読む。これが「見て知る」である。「知って見る」とは、事前にその他の歴史を調べ、文学を深く読み込み、実際に訪ねてみることである。体を動かすことによって体力も維持できるだろうし、人生を楽しく生きる手助けになればとも思っている。

先人が、その時代何を考え、どう生きてかたに少しでも迫ればよいとも思っている。また、この「愚かな悩める現代」（戦争、テロ、原発問題等々）をどう生きてらよいかを考える機会になればとも思っている。

日本人が春夏秋冬、この四季の中、豊かな自然の中で何を感じたか、何を思ったかも追求したいテーマのひとつである。また私の地元、中世の鎌倉を舞台にどんなドラマが展開されたか。幕末の京都で「新撰組」の果たした真の役割は何だったか（歴史的事実とされるものは真実でないのではないか?）。芭蕉は『おくのほそ道』で何を追究しようとしたのか。

こんなことを考えながら、調べ、歩き回っている今日このごろである。

二〇一一年十月

著者

## 目次

はじめに —— 「見て知る・知って見る」 3

### 第一章 鎌倉を知る

#### 一 義経と鎌倉

- 腰越こしこえ 12 / 江の島 14 / 静御前 15 / 大姫 19 / 梶原景時かげとき 21  
能子よしこと頼朝 23 / 大江広元 25

#### 二 鎌倉の地名

- 山ノ内 27 / 雪ノ下ゆきのした 29 / 佐助さすけ 30

#### 三 鎌倉の七口

- 名越なこえの切通しきりとお 32 / 仮粧坂けわじざか 34

#### 四 湘南にゆかりの人たち

平塚雷鳥	36	／	勝海舟	40	／	大岡忠相 <small>おおくわただすけ</small>	41	／	大宅壮一	46
川上貞奴	48	／	城山三郎	50						

### 第二章 仏・神・人を知る

#### 一 寺の名称の由来

その一 年号を寺名にした寺	54	／	その二 氏名を寺名(寺号)・山号にした寺	58
寺	56	／	その三 仏語に関係した寺	58

#### 二 自然と人間の営み

小出川土手の彼岸花	64	／	三分一湧水 <small>さんぶんいちゆうすい</small>	66	／	大内宿	67
「白神山地」と日本人	69						

#### 三 日本の美

稲荷・狐・油揚げ	73	／	寒川神社の神苑	75
----------	----	---	---------	----

祭りと日本料理のもてなし 77 / 羽黒山五重塔 78 / 円覚寺の池 81

#### 四 などで解き

「四十八願」をなんと読む？ 83 / 「八十八」とはどんな意味？ 84

「大仏」が、なぜ「おさらぎ」？ 86 / 鐘楼の柱はなぜ斜めか？ 87

#### 五 「南無」の付く言葉

その① 89 / その② 91

### 第三章 日々学び、知る

#### 一 行脚の一徳 94

#### 二 地名のおもしろさ

島原 97 / なるこ 鳴子と尿前 しとまえ 98

#### 三 言葉の由来

「引き出物」と「下馬評」 101 / 「束の間」 103 / 「几帳面」 105

「風呂敷」	106	／	「瓶子」 <sup>へいし</sup>	108	／	「くだらない」	108
「けりをつける」	110	／	「もっけの幸い」	111	／	「薬袋」？	112
桜の「さ」	113	／	「あ波れ」と「阿は連」	115	／	「玄翁（源翁）」	117
「沢庵漬け」	118						

#### 四 江戸時代の小話

「篤姫」は何回名前を変えた？	121	／	「天折」 <sup>よっせつ</sup> の原因は「鉛公害」？	122
----------------	-----	---	---------------------------------	-----

### 第四章 平和を知る

一 民主か暴力か	126
二 鍋かぶり日親 <sup>なべ にっしん</sup>	128
三 普天間	130
四 「田中正造生家」と「足尾銅山」	132

五 怨親平等 おんしんびやうどう

134

六 八月がくれば思い出す

136

七 文化は戦争に優先する

138

おわりに — 「どこかで春が」

141



# 第一章

## 鎌倉を知る

## 一 義経と鎌倉

### ■ 腰越 こしこえ

二〇〇五年の大河ドラマ「義経」が始まっている。どんな展開になるか興味津々である。なぜかというと、昨年、鎌倉案内を二時間半ずつ四十七回も行っていったからだ。中には義経に関係する場所がいくつもあった。そのひとつが腰越である。

鎌倉時代は、都市（市内。当時は京都の「洛中」に対し「鎌倉中」といった）に罪人や悪い疫病は入れないという風習があった。一一八五年、壇ノ浦で平氏を滅ぼした義経は、平宗盛親子を護送して鎌倉に向かう。頼朝は、宗盛親子は鎌倉中に入れるが、義経の市中入りは許さず足止めしていた。その義経が逗留させられていた所が腰越の「満福寺」である。この寺には「腰越状」の下書きといわれる書状が残っている。また、義経伝説で語られるシーンが鎌倉彫で襖絵に描かれている。



満福寺襖絵

一一八九年、奥州平泉は衣川の館で、藤原泰衡やすひらに攻められた義経は、三十一歳の若さで自刃させられる。その首実検を行った場所が「腰越の浦」である。当時の腰越は鎌倉の外の宿駅であった。死しても鎌倉中には入れなかったわけで、義経は罪人扱いであった。頼朝との仲たがいから後世、悲劇の主人公としてさまざまとりあげられ、「判官鼻貞ほんがんにびい」という言葉も生まれる。

腰越辺りは好きな町のひとつである。ひとつの道路を人間も、電車も、車も行き交うところがなかなかい

い。「しらす井」もおいしい。

(二〇〇五・二)

## ■江の島■



奉安殿

大河ドラマの「義経」が始まって一カ月が過ぎた。前年の「新撰組」よりおもしろそうな感じがする。当初一ヶ月は史実にはない展開であった。室町時代の初めに書かれた『義経記』をもとに、宮尾登美子氏が書いた『平家物語』『義経』を金子成人氏が脚色した、あくまでも物語である。

私の方は、今月は「江の島」を案内していた。江の島は、古代から信仰の島であった。一一八二年(養和二)、文覚上人に命じて、頼朝がこの江の島に琵琶

琵琶湖の竹生島から弁才（財）天を勧請した。自らは鳥居を寄進し、奥州藤原氏をのろい殺すという「調伏」ちようぶくを行つてゐる。文覚は二十一日間断食して、戦勝祈願を行つてゐる。

その奥州平泉へ、義経は若いときに行つて藤原清衡に可愛がられ、長じては兄頼朝に追われ逃げていったわけである。この異母兄弟二人の対立は、この時代の奥州藤原氏と鎌倉幕府の力関係とからませ、歴史的にとらえなくてはならない。

現在その弁財天は奉安殿に安置されている。一見の価値あり。 (二〇〇五・二)

### ■ 静御前 ■

大河ドラマ「義経」でも、義経と静御前が出会う場面が出てくるが、あれは明らかになフィクション（創作）である。早々に登場させたが、視聴率アップをねらつたものであろう。

静御前がいつごろ義経と出会つたかは定かでない。雪の古野山で義経と別れた静は、

一一八六年（文治二）三月に捕らえられ、鎌倉に送られる。そして翌四月、鶴岡八幡宮で義経を恋慕う舞いを舞ったという逸話は特に有名で、錦絵や本の挿絵などに描かれることも多い。

この時代、さまざまな女性たちが活躍している。平時子、北条政子、常盤御前、巴御前、大姫等である。私は彼女たちの中でも特に、静御前に拍手を送りたい。

死を覚悟しながら堂々と、仲たがいをしていた頼朝の面前で静は、

吉野山 峰の白雪 ふみわけて 入りにし人の 跡ぞ恋しき  
しづやしづ しづのとだまき くり返し 昔を今に なすよしもがな

と、義経を慕う歌を詠いながら舞いを舞った。何か現代的なレジスタンスとさえ思えない。

今年も四月、鶴岡八幡宮の舞殿では、「静の舞」の奉納がある。 二〇〇五・三

# 途中省略

続きは製品版にてお読みください。

## 著者プロフィール

**小宮山 直士** (こみやま なおし)

1942年6月15日、山形県生まれ

神奈川県在住

山形大学教育学部卒

朝日アウトドア教養講座講師

茅ヶ崎地区歴史散歩の会会長

## 見て知る 知って見る —私の歴史・文学散歩

---

2012年1月15日 電子書籍版発行

著者 小宮山 直士

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

©Naoshi Komiyama 2012 Coded in Japan

ISBN978-4-286-11146-9

(紙の書籍をお求めの場合には、お近くの書店にてお尋ねいただくか、文芸社ホームページ

<http://www.bungeisha.co.jp> をご参照ください。)